

生育状況に応じて「麦踏み」を実施しましょう

1 気象概況と生育概況

11月上旬から2月上旬における平均気温と降水量は低温かつ少雨傾向で推移しており（図1）、例年よりも麦の生育は遅れています。また、11月下旬以降の播種や播種深度が深いほ場では、乾燥害の影響を受けている様子も見受けられます（図2）。

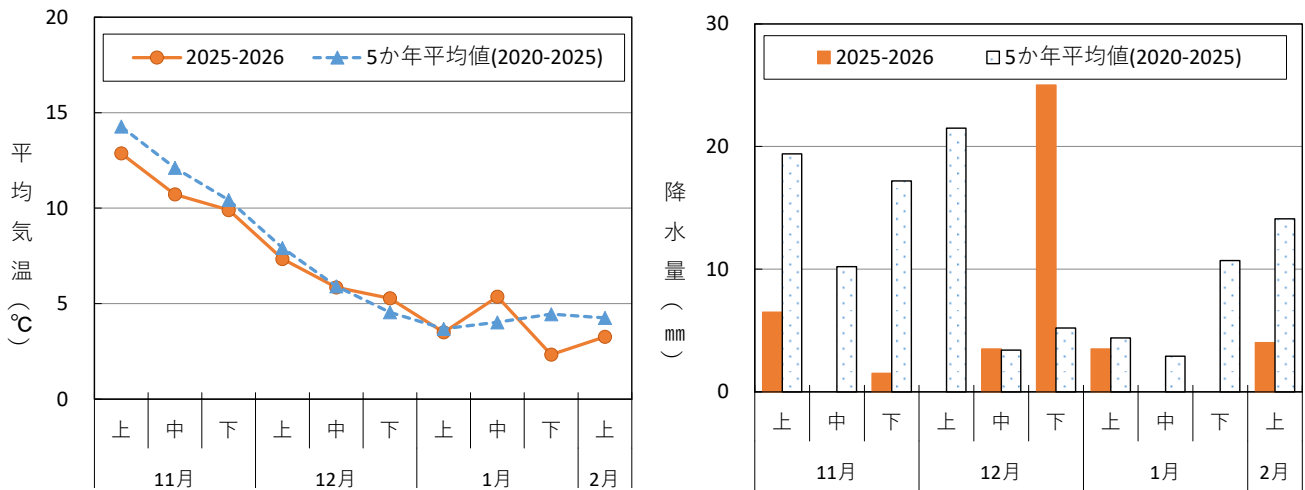


図1：11月上旬から2月上旬までの気象状況（左：気温、右：降水量）



播種深度は、左から 3cm、4.2cm、4.6cm、5cm（適正播種深度は 2～3cm）。一番左の株は播種深度が適正で概ね問題なし、それ以外の株は播種深度が深く乾燥害を大きく受けている。

図2：乾燥害が確認された小麦の様子

11月中旬に播種した大麦の生育状況は下表のとおりです。なお、次回の生育情報では、「さとのそら」と「ゆめかおり」の生育状況も併せて掲載する予定です。

表：調査ほ場の耕種概要および生育状況

| 品種 | 調査地点 | 播種日 | 播種量 (kg/10a) | 条間 (cm) | 基肥窒素量 (kg/10a) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/㎡) | SPAD |
|--------|--------------|--------|-----------------|------------|-------------------|------------|-------------|------|
| カシマゴール | 古河市 (旧総和) | 11月12日 | 4.6 | 13 | 5.6 | 10.5 | 562 | 39.6 |



図3：調査ほ場の様子（2月12日撮影）

2 今後の栽培管理

・麦踏み

麦踏みにより、徒長防止（倒伏軽減）、耐寒性強化、分げつ促進などの効果が期待できます。今年は、生育の遅れに伴う茎数不足が懸念されるため、麦踏みの実施が茎数の確保に重要です。

分げつ（1株4枚以上の葉が出た状態）が確認出来たほ場は、乾いているときに積極的に麦踏みを行いましょう（図4）。



図4：分げつが確認できた株（小麦）

・雑草防除

低温少雨傾向で推移する年は「土壌処理剤」の効果が低下する傾向が見られます。気温の上昇および降雨の増加に伴い、雑草が一気に出芽する可能性がありますので、雑草が確認できた場合は小さいうちに茎葉処理剤を散布しましょう。

○次回は、2月下旬頃に現在の生育状況や今後の管理（麦踏み・追肥）などについて生育情報を作成する予定です。今後の栽培管理についてご質問があれば遠慮なく普及センターまでご連絡ください（TEL：0297-34-2134）。